

軍用犬チームの能力を高める黒のラブラドル *Black labs bring enhanced capabilities to the kennel*

June 17, 2021

By Staff Sgt. Joshua Edwards
374th Airlift Wing Public Affairs

第374憲兵中隊は5月17日、沖縄キャンプ・ハンセンの第三海兵遠征軍から、5歳と4歳の黒のラブラドル・レトリバーを迎えた。

第374憲兵中隊軍用犬ハンドラーのミゲル・グアハルド軍曹は、先月、第459空輸中隊の協力を得て、「スプラッシュ」と「アリー」を受け取るために沖縄に向かった。

グアハルド軍曹は、「急だったので、私が引き取りに行かなければならないと言われた。第459空輸中隊が私の為にC-12ヒューロンの飛行機を用意してくれて、2頭を迎えに行くために一日中飛んだ。往路は4時間、復路は5時間掛かった」と話す。

2頭の犬たちは、海兵隊が通常の法執行機関で働く軍用犬のためにコンパクト化している派遣プログラムから来た。

「海兵隊は元々、その犬たちを引退させるつもりだった。これらの犬たちは1頭10万ドルほどの価値がある。若くして退役することを知った時、私はすぐに連絡した」と第374憲兵中隊軍用犬犬舎責任者セス・シャノン技能軍曹は言う。

スプラッシュとアリーは、海兵隊の規定に合わせて訓練されたため、一般に空軍で訓練されたジャーマンシェパードやベルジャンマリノアとは少し異なるスキルを持っている。

「これらの犬たちは、空軍の基準よりも3種類以上の爆発物の臭いを知っている。彼らは一つの任務、つまり探知のみ行い、噛みつく訓練は受けていない。向かう場所で犬が誰かを噛まないかどうかを心配せず、リードを外して捜索させることができる」とシャノン技能軍曹は言う。

それによって空軍の軍用犬よりも遠くまで移動でき、リードを外した状態で様々なハンドシグナルを受け取ることができる。

「彼らと一緒に仕事をするのは楽しいし、今までの仕事とは違う経験ができる。私が普段飼っている『フロリダ』という名前の犬と、この犬たちは全く違う方法で捜索する。全ての犬が同じというわけではないので、一緒に過ごすうちに色々なことを学んでいく」とグアハルド軍曹は言う。

このラブラドルを受け取ったことにより、第374憲兵中隊は1年ほど続いた軍用犬不足が解消された。これで、数年前から横田にいる軍用犬を退役させても、任務に空白がでることはない。

今はまだ、この2頭の軍用犬にハンドラーは就いていないが、今後数カ月以内に彼らのハンドラーが横田に到着する予定だ。

